



adult part.

01・夜の学生寮に忍び込んで、あまあま授乳手マンしてもらう

前日譚『06・秘密の関係になる』から約一年後。

十月のある夜、クラウディア、寮の自室で主人公を待っている。信じられない事だが、今夜、これから会ってくれるらしい。

さつき連絡が来て、クラウディアさえ差し支えなければ、部屋まで忍び込んでくるという。

クラウディア、もちろんOKした。

来てもらった後どうなるかも察しているの、今は何を着て出迎えようか考え中である。

次のデートで着ようと思っていた服……は、ちょっと気合いが入り過ぎである。

部屋でそこまでおしやれしているなんて、ちよつと絵面的にも面白くなってしまう。

温存した方がいい。

制服……も変だ。というか、『突然のお部屋訪問』というせつかく生活感を演出できる展開なのに、いつもと同じ格好をしてどうする。

ここはやっぱり『もう眠るところだったんです』感をアピールするパジャマ姿だろう。だが、ここまで絞つてもまだ選択肢はいくつかある。

クラウディアは、寝る時くらいは楽をしたいと思っている。

だが、正直女性用Mサイズの服でも、胸がきつい事がある。

前をボタンで留めるタイプだと、なおそれが顕著だ。

なので、パジャマは余裕をもってLサイズを着ている。

デザインはかわいいと思うが、これではちよつとダボつとしすぎかもしれない。

太って見えないかな。うーん。

かといって、自分がこれからどうなるかはわかっていない。

トレーナーとかワンピースとかの、スポつと被つて着るタイプのものでは、見栄えが悪い。

やっぱり、ボタンを外したら簡単に前が開くタイプがいいな。
できるだけ自分のイメージを損なわないかわいいやつ。

本当は私、もっと楽なやつが好きなんだけど。

それから……。

と、準備を済ませた頃、部屋の窓が『コンコン』とノックされる。主人公が来た！

SE1 .. 主人公がクラウドディアの部屋の窓を叩く音

【頭から最後まで流す】

SE2 .. クラウドディアが慌てて窓辺まで向かう音

【頭から流す】

【0―5秒ほどまで流してSE3】

SE3 .. クラウドディアの部屋の窓を開ける音

【頭から流す】

【0―1秒ほどまでの『開ける』の動作のみ流してセリフ】

● 中央

【ドキドキしながら呼びかける】

先生……？」

〈主人公〉

「はい。わたしです……」

● 中央

「とにかく嬉しい」

お待ちしております♥ 今開けますね」

クラウドディア、飛び上がりそうなほど嬉しい。あと着替えが間に合ってよかった。
大好きな人の方から、危険を冒して会いに来てくれた。

いや、割とって言うか、いつも先生から会いに来てくれるんだけど。

先生は『わたしに会うために、デイデイが夜一人で歩くのは絶対に嫌』なんだって。だから必ず待ち合わせか、主人公から来てくれるパターンなの。好き。そういうところ本当に好き。大好き。こんな幸せが自分の人生にある事が信じられない。

『ていうか私、これからセックスしちゃうんですよ！　すごくないですか』と叫びたい。
もちろんそんな事はしないけれど……。

だが、主人公はなんだか申し訳なさそうにしている。

しかし、クラウドディアは、そんな主人公を見ているだけで胸がきゅんとなる。

今すぐその申し訳なさそうにしている理由を取り除いて、いっぱい安心させてあげたくなる。

それに、主人公が今日こんなに落ち込んでいる理由も、実はなんとなく察している。

今日、主人公が他の教師から嫌な事を言われ、理不尽に虐げられているところを、クラウドディアは遠くから目撃したのだ。

正直相手を呪い殺してやりたいくらいだが、それができるなら、この世からすでもう何人かは消えている。

自分に呪いの才能はない。

忍者の才能は感じているが、呪いに関しては、ないと断言できる。

ものになりそうもない呪いの力を伸ばすくらいなら、主人公を直接ケアする力を伸ばす努力をした方がいい。

〈主人公〉

「急にごめんね。……大丈夫かな？ 誰にも見つかってないかな？」

対する主人公、クラウドディアの予想通り、今日は身も心もボロボロ。さつきまで今にも死にそうな顔をしていた。

しかしクラウドディアのパジャマ姿を見た途端『ばああ……』と表情が明るくなり、元気になる。

『かわいいパジャマ！ イメージぴったり！ かわいい！ シンプルなようでいて地味に高そう！』と、テンションが上がる。

本人がかなり考えてこの服装にした事など、知る由もない。あと思ったより高くもない。高見えするやつを選んだだけだ。クラウドディアはケチである。

SE 4 ..クラウドディアの部屋の窓を閉める音

【SE 3と同じ音】

【途中から流す】

【2―4秒ほどまでの『閉める』の動作のみ流してセリフ】

SE 5 ..主人公が部屋の中へ入る音

【頭から最後まで流す】

● 中央

「つとめて穏やかに」

大丈夫ですよ。誰にも見つかっていないはずですよ。

「すごく優しく」

どうかしましたか、何かありましたか？ 私にできる事はありますか？」

〈主人公〉

「あのね……」

主人公、なんだかもしもじしている。

わざわざ自分から会いにきたのに、本題を切り出そうとしない。

クラウディア『なぜだろう？』と思うが、すぐに気づく。

主人公曰く、主人公と自分は恋愛経験値が同じだ。

自分がした事がない事は、主人公もした事がない……という認識で差し支えないらしい。つまり、主人公は今まで夜中に突然恋人の部屋に訪問した経験がないと考えてよい。

『そうだ。この人は、私としかセックスした事がないんだ。だから、自分の都合だけで

会いに来て、甘えようとしている事に罪悪感を感じているんだ』と気づく。
『自分はクラウドディアの恋人なのだからちよつとくらいは』と開き直ればいいのに、それができないらしい。

●中央 近い

「『何でもしますよ!』という感じで
はい」

〈主人公〉

「ちゅーしたい……」

クラウドディア、そんな主人公をかわいいと思う。
同時に『絶対それだけじゃないでしょ』と思う。

こんな大変な思いをしてまで生徒寮に来て、キスで終わりなんてある訳がない。
でも、主人公からは言い出しづらいのだろう。
こちらから何も言わなかったら、本当にキスだけして帰っていきそうな気がする。

クラウドディア、なんだかますます主人公が可愛く見えてくる。
この人をいっぱい甘えさせたいという気持ちでいっぱいになる。

●中央 非常に近い

「ふふっ。そんな事でいいんですか？
目を閉じて下さい。」

【軽く一回だけキスする】

ちゅっ♡

【すごく優しく】

少しは、楽になりますか？

【また、軽く一回だけキスする】

ちゅっ♡

〈主人公〉

「うん……♡ ディーディ、好き……」

●中央 非常に近い

【子どもをあやすような感じで】

じゃあ。もつとしましうね。

【※15秒※ ほどキスする。浅いキスから始めて、だんだん深くなる】

ん……♡ ちゅっ♡ ちゅくっ……ちゅっ♡ れろっ……ちゅっ♡ んっく……ちゅ

♡ ちゅ

ふふ。先生、もう力抜けちゃってる♡ 本当にお疲れなんですね。

いいですよ。寄りかかって♡

【※15秒※ ほどキスする。さっきよりも濃いキス】

んうっ……れる♡ ちゅるっ♡ ん……♡ くちゅるっ♡ ちゅるるっ♡ ちゅっ♡

クラウドデイア、熱心にキスする。

正直、技術的な意味であまり自信はない。

ただ、主人公の唇や舌に、自分の好きなように、熱心に絡みついているだけだ。

だが、それでもとても気持ちよくて、だんだん自分も力が抜けてきた。

主人公もそのようで嬉しい。

〈主人公〉

「デイデイ、癒し系すぎてヤバイ……」

●中央 非常に近い

「嬉しそうに優しい声で。だが、内心ではピンときていない」

え？ 癒されますか？ それはよかったです♥」

クラウディア、正直、自分は癒し系とは程遠いと思う。むしろ『疲れる系』だ。一緒にいる時はずっと構ってほしいしおしゃべりたいし、連絡はまめに欲しい。嫉妬も執念も深いし、自己主張も激しい。相当手がかかる自信はある。でも、主人公はそんな自分を癒し系と言う。よっぽど疲れているのか、それとも……。

クラウディア、今度はいきなりキスする。

●中央 非常に近い

「【※30秒※】 ほどキスする。さらに濃いキス。だんだんうまくできるようになってきた」
んふっ……♥ ん♥ ん♥ じゅるるっ♥ んんっ♥ ちゅるるっ♥ ん……♥ ちゅるるっ♥ んっ♥ んうっ♥ ちゅ♥ れるっ♥ ん♥ ちゅくっ……くちゅっ♥

【※7秒※】 ほどかけて呼吸を整える」

はあ、はあ、はあ、はあ……♥

先生、かわいい……♡ お目目うるうるしてきちゃいましたね。

【すごく優しく】

さあ、どうぞ。もっと、ぎゅってさせて下さい?」

SE6 : クラウディアが主人公を抱きしめる音

【頭から最後まで流す】

クラウディア、主人公の頭を、自分の胸にうずめさせて話す。
位置は中央のまま、上に寄る。

●中央 上 非常に近い

「ん……♡

【軽く一回だけキスする】

ちゅ♡

ふふ♡ 先生かわいい♡ よし、よし。

【少し間をあけてから】

今日、大変でしたもんね。見てましたよ。

【声が少し暗くなる】

お手伝いできなくて、すごく嫌でした。
きつとあの後も、辛い事、あったんですね。

【声が少し明るくなる】

来てくれて嬉しいです。

私。早く先生の事、ぎゅってしたかったです。

【※マークまで、意識してゆっくり話す】

先生。今日は嫌な事。苦しい事。頑張って我慢しましたね。偉いです。
私はちゃんと見ていましたよ。

でも、もう我慢しなくていいんです。

もう一人で落ち込まなくていいんです。私がいいます。

私はいつでも、先生の味方ですよ。

だから、たくさん甘えて下さいね」※

クラウディア、主人公を抱き寄せて、その頭を撫でる。

主人公は、うつとりしながら、しがみついて甘えてくる。

よっぽど辛かったのだらう。落ち込んでいるのを隠そうともしない。

クラウディアの言葉を否定しないあたり、相当だ。

いくらでも甘えさせてあげたくなってくる。

●中央 非常に近い

「【すごく幸せ】

ふふ。先生の髪の毛、すごくいい匂いがします」

〈主人公〉

「本当？ くさくない？」

主人公、心配になってくる。

見つからないように建物の二階まで登るのは重労働だし、当然いけない事なので、普通の汗も冷や汗もすごい。

●中央 非常に近い

「【主人公が心配そうにしているのかわいい】

あはっ♥ 大丈夫ですよ。私先生の匂い大好きです。

「【※マークまで、意識してゆっくり話す】

ふふ。よし、よし。いい子、いい子♥

先生はすごくいい子です。いつもたくさん頑張ってます。

【少し間をあけてから】

……でも。悪い子になっても大好きですよ。

私、それぐらい先生が好きなんです。だから安心して下さいね。

先生。私は、先生がいい子でいられない時も、必ずそばにいます」※

〈主人公〉

「ディディ……♡」

クラウドディア、主人公が顔を上げて、すぐるような目で見て来たのできゅんとなる。
右手で顎を軽く持ち上げて、そのままキスする。

●中央 非常に近い

「先生♡」

【軽く一回だけキスする】

んっ。ちゅ♡

【※30秒※ ほどキスする。甘い雰囲気だねっとりキスする】

んん♡ つく♡ ちゅるっ……ちゅっ♡ ちゅぶっ♡ んんう♡ ちゅっ♡ じゅるる

♥　ちゅぷっ　♥　　んん……　♥　　ちゅ　♥　　れろっ、ちゅばっ　♥　　ちゅっ　♥　　ちゅっ　♥

【満足げに】

ふふ。顎クイって初めてしちゃった。ドキドキしました?」

〈主人公〉

「すごくした……!」

クラウドディア、主人公がとても喜んでるのでドキドキする。

クラウドディア、主人公と恋人になる前までは、主人公にあんな事をされたい、こんな事をしてほしいと考えていた。

が、実際に付き合ってみると、ずいぶん思っていたのと違う。

主人公は、外では気遣ってくれて、優しくしてくれて、守ってくれて、正直完文句のつけどころのない恋人だ。

だからおそらく、こちらが何かしてくれるのを待っていれば、きっと期待以上の事をしてくれるだろう。

でも、そんな場合じゃない。とクラウドディアは思う。

もっと自分から積極的に動いて、自分が支えてあげなくちゃ心配だ、と。

となると、自分はもしかすると、主人公に色々してもらうよりも、自分から攻める方が好きなんじゃないだろうか。

だって、主人公の顔を見ていると、何でもしてあげたくなってしまう。
主人公といると、知らない自分が次々引き出されてしまう。

つまり自分は、自分の事を何も知らなかった。

クラウディアは、これまでは自分の事に興味がなかった。

自分の事なんてどうでもよくて、平気で粗末に扱っていた。

でも今は違う。それはきつと、主人公がいっぱい自分を大切にしてくれたから、クラウディアにも自分を大切にする余裕ができたのだ。

そんな風に自分を変えてくれた主人公に、やっぱり何でもしてあげたくなってしまう。

● 中央 非常に近い

「キスする」

ん……♡ ちゅっ♡

【唇を離して照れる】

えへ……嬉しいです。

【少し間をあけてから】

● 右 ささやき 非常に近い

【※マークまで、ゆっくり、優しくささやく※】

ほら。先生。おっぱいも、もっと触っていいんですよ。
イライラもモヤモヤも。全部私にぶつけていいんです。

【ちよつとだけ意地悪にからかう】
だって。

ちゅーだけしくて来たんじゃないですよね？」※

〈主人公〉

「う……」

クラウド、よし、あと一押し。と思っている。

押さなくてもどうなるかは、だいたい決まっているけど。

● 右 ささやき 非常に近い

【※マークまで、優しくささやく】

先生♥ 私は、ずっと先生に甘えてきましたよ。

だから。先生も甘えていいんです。

私たちは対等な恋人同士で。上とか下とか、ないんですから♡ だから♡ ね？

【ひとときわ優しくささやく】

えっちな事しましょう？」※

〈主人公〉

「……！」

SE7 ..主人公がクラウドディアをベッドに押し倒す音

【頭から最後まで流す】

クラウドディア、主人公にベッドに押し倒される。

とは言っても力は弱い。頭をしっかり支えられたので痛くもない。

『あー！ もう！ こういうところが！ 好き！』と思ったが、たぶんこれは漫画知識だ。
以前主人公に借りた漫画に、何かそういうシーンがあった。

主人公は、キスしたあと、胸を触ってくる。

●中央 下 非常に近い

「一度だけ、唇を深く重ねるキスをする」

ん♡

あっ……♡

【※5秒※ ほどかけて呼吸を整える】

はあ、はあ、はあ♡

【声が高くなる。胸を触られて、すごく気持ちいい】

んっ……♡

【ゆっくり呼吸する。持ち直して元の声の高さに戻る】

はあ……はあ……。ふふ。夢中でおっぱい触ってる。かわいい。

はあ、はあ……。♡ やっぱり甘えたかったんですね♡

【ゆっくりと】

先生、かわいい。すごくかわいいです。よし、よし。好きなだけ触って下さいね。

【『大好き』と言わせたい】

大きいおっぱい。大好きですもんね？」

〈主人公〉

「大好き……デイデイのおつきくてえっちなおっぱい好き……」

●中央 下 非常に近い

「【呆れつつも嬉しい】

もう♡」

〈主人公〉

「ねえ。触ってたら。デイデイのパジャマの上から、ここ、おつきしてきたよ?」

●中央 下 非常に近い

「【ゆっくりと。すごく感じている。胸を触られて、すごく気持ちいい】

ああっ……♡ん。あ♡

はあ、はあ……。んっ……。♡

ふふ。わかつちやいましたか?

先生が来るってわかってたから……。パジャマの下。

【恥ずかしいので、ぼそつと言う】

何も、つけてません。

●左 ささやき 非常に近い

【※優しくささやく※】

ボタン。外してほしいです♡

● 中央 下 非常に近い

ほら……♡ 先生が、上からいっぱい触るから♡
こすれてっ……♡ んっ。私のここ。

【ゆっくりと。すごく恥ずかしい】

もう、おつきしちゃってます。

うん？ もうちゅうちゅうしたくなっちゃいましたか？

● 左 ささやき 非常に近い

【※優しくささやく※】

じゃあ。横になって？

そう。仰向けに寝て下さい」

SE8 ..クラウドディアがベッドの上で移動する音

【頭から最後まで流す】

【音量を少し小さめにする】

クラウドディア、先ほど主人公を待ちながら『今日はあれをやってみよう』と思っていた。
この前百合ものの二次創作アダルトコミックで読んだやつである。

その作品では、攻める側のキャラクターが、横になった受ける側の顔に胸を乗せて、そのまま乳首を吸わせていた。

攻める側のキャラクターは、とにかく胸が大きかった。漫画だものね。

だから完全に同じようにはできないと思うが、まあいけるだろう。

クラウディア、意を決して、主人公の顔に自分の胸を直接乗せる。

実際にやってみるとかなり恥ずかしい。あと、こすれるだけでかなり感じてしまった。ということでのネタは、ここまでやって滑ると恥ずかしい。

『やってしまったか?』と思うが、もう後に引けない。

●中央 上 非常に近い

「うまく話せない。余裕がなくなってくる」
こ……これで。

【ゆっくり呼吸する】

はあ……はあ……。

寝たまま。おっぱい、吸えますよ……♡

頭はこうして。撫で撫でしていますから。

いっぱいお乳飲みましょうね♡」

対する主人公は、ものすごい衝撃を受けている。

顔に押し付けられた途端、胸は大きく横に広がって、本当に顔が埋まりそうだ。
あと、重い！　すごい！

●中央　上　非常に近い

「主人公が何やら驚いているので」
うん？

「すごく恥ずかしい」

あつ……。おつきくて、重たくて、びっくりしました？

お顔に乗つけたの、初めてですもんね……。♡

「かわいくすねる」

もう、先生のえっち。そうですよ。すごく重いです。いつも大変なんです。
だから、先生専用のおっぱい。たくさん飲んでくれなきゃ、嫌ですよ？

「優しく」

ほら……。どうぞ。よし、よし♡

「ゆっくりと。しっかり吸われ始めて、すごく感じてしまう」

ん……。♡　あつ♡　あ♡　くうっ♡

先生、それはっ……♡

【すごく感じて、声が高くなる】

ん♡

おっきい声出ちゃうからダメです……♡

【吸い方がゆるやかになったので持ち直す】

はあ……んっ。そう、です。んっ♡　そうです……。

【大きい声が出ないように、ゆっくり呼吸する】

あっ……んっ。はあ……はあ……ふうっ……。

んっ……♡　あ♡

【※10秒※　ほどかけて呼吸を整える】

はあ……はあ……はあ……」

クラウドディア、主人公を癒す事に集中したいのだが、正直すごく気持ちいい。おまけに、主人公がもう片方の乳首を触り始めた。

主人公は、手で乳首をいじるのがすごくうまい。めっちゃくちゃ感じてしまう。

● 中央　上　非常に近い

【すごく感じて、声が高くなる。吸われてない方の乳首を触られている】

あぁっ……♡

もう。吸ってない乳首♡ いじってないっ。落ち着かないんですか？

【かわいく怒る】

このおっぱい星人め。

【ゆっくり呼吸して快感に耐える】

本当に……♡ 悪い赤ちゃんなんですから。

【ゆっくりと。今度は乳首を甘噛みされて、ますます気持ちよくなる】

ん♡ かりってしちゃダメです……♡

【※マークまでさらにゆっくりと。かなりゆっくり呼吸しながら話す】

あ♡ ダメったらっ……♡

ん。ダメ……♡ 気持ちよくなりすぎたら……あっ……♡

やっ♡ あっ……♡ いやっ……♡ ※

【必死で耐えて、なんとか普通に話そうとする】

ダメですっ……♡ あ♡ ダメ、ってっ。はぁ……はぁ……あ。言ってるのにつ♡

あ……♡

【声が低くなる。必死に耐えようとしている】

うっ……♡ ダメっ……♡ なのにつ……♡

【声が高くなる】

あ♥

【耐えようとするがもうダメ】

くうっ♥

【乳首で軽くイッてしまう】

ん……!」

クラウディア、大きな声が出そうになるが、必死で耐える。

乳首を唇と歯と手で攻められて、軽くイッてしまったが言わない。

ここで気持ちよかったのを認め過ぎたら、きつともっと攻められてしまう。

それでは、ママの役割が果たせなくなってしまうからである。

ここから持ち直さなくては……。でも、主人公はやめようとしなない。

●中央 上 非常に近い

【※7秒※ ほどかけて呼吸を整える】

はあ、はあ、はあ、はあ……♥

【ゆっくりと。ちよつと涙声になっている】

もう……悪い子なんですから♥

【気持ち良すぎて訳がわからなくなってきたが耐える】

おっぱい吸うのやめてくれないしいっ………♡

【※7秒※ ほどかけて呼吸を整える】

はあ、はあ、はあ、はあ………♡

【なんだかんだ嬉しい】

もう。ひどいです。いたずらが♡ 過ぎますよ………♡
おしおきです」

SE9 …クラウドディアが主人公のスカートをめくる音

【頭から最後まで流す】

●中央 上 非常に近い

【呼吸が荒い。うまく話せず、言葉が途切れる。まだ乳首を吸われている】

こん、な♡ 悪い♡ 赤ちゃんのっ、事はっ♡

わ、たしが。

あ♡ ちゃんとしつけてあげるんですからねっ………♡

はあ………はあ………♡ ほら。身体を………こっちへ、向けて下さい？

ぱんつの中………触らせて下さい。先生もそろそろ………お辛いでしょう？」

SE10 ..クラウドディアが主人公の下着の中に手を入れる音

【頭から最後まで流す】

SE11 ..クラウドディアが主人公の股間に触れる音

【頭から流す】

【0―1秒ほどまでの、最初の『くちゅ』だけ流してフェードアウトする】

クラウドディア、今にも負けそうになっていたが、主人公の股間に触れて、驚いて持ち直す。

そこは、あまりにもぐちやぐちやに濡れているので、嬉しくなる。

●中央 上 非常に近い

【少し余裕を取り戻す】

ふふ……♡ すごい。

先生ったら、おっぱい吸ってただけなのに。

こんなにぐちゅぐちゅになってたんですね……♡」

〈主人公〉

「だって……デイデイかわいいから……♡」

● 中央 上 非常に近い

【嬉しい】

いやらしい♡ こんなのにけませんよ？ おしおきですっ♡

SE12 ..クラウドディアが主人公の股間に触れる音

【SE11と同じ音】

【頭から最後まで流す】

【途中から速度が上がる】

【規定の位置まで繰り返し流す】

【小さめの音量で流す】

● 中央 上 非常に近い

【すごく興奮して】

わ……♡ お洋服にまで染みています。

【優しく。声は優しいが、ちよつと意地悪を言う】

もう。こんなの。おもらしと変わりませんよ？

【すぐ興奮して。とたんに愛液がどろっと溢れて来たので驚く】

あ♥ 今、たくさんどろって溢れてきました。

おもらしがバレて興奮しちゃったんですね。変態さんなんですから。

そんな変態さんのクリトリスさんは。このどろどろで、もっとさすってあげます♥

【※マークまで、意識してゆっくりと】

はあ……はあ……♥ ふふ♥ 気持ちいいですか……？ これから、もっと気持ちよくなれますよ♥

ほら♥ このぬるぬるを付けて。赤くなったぶくぶくをこうして下からえぐったら、すごく気持ちいいですよ♥※

〈主人公〉

「あ♥」

●中央 上 非常に近い

【満足げに】

ふふ。びくってした……♥ かわいいです。もっとくちゅくちゅしましょうね？
いっぱいしましょう？ いくらでも、いつでもしてあげますからね♥

【少し間をあけてから】

だから。先生のここは、ずっと私だけに触らせて下さいね。

【土台無理だとわかっていても、言いたい】

私専用にするんです。自分の手で触るのもダメです♡
むずむずしたら、必ず私におねだりする事。

気持ちよくなるのは、私の前だけです。約束ですよ♡

【少し間をあけてから】

ちゃんと約束守れたら、疲れて寝ちやうまで、気持ちよくしてあげますから……♡

【少し間をあけてから】

よし、よし♡ おっぱい吸いながら腰押し付けるの。

んっ♡ すごく上手になりました、ね♡

はあ……はあ……♡ 一生懸命動かしてるの、すごくかわいいですよ。

【少し間をあけてから】

でも、こんなの誰にも見せられませんね。

赤ちゃんみたいにおっぱいとお手々に甘えて。

こんなに気持ちよくなってるなんて、二人だけの秘密ですよね♡

【乳首を甘噛みされて】

あ……♡ 噛まないの♡ 気持ちいいからお口加減できませんか？

じゃあ、もっと練習しなくちゃいけませんね。

明日もおっぱい吸いに来なくちゃダメです。毎日練習して、上手になりましたよね♥

【気持ちよくて頭がぼーつとしてくる】

はあ……♥ ほんとに♥ おっぱい大好きなんですから」

〈主人公〉

「デイデイ……♥ わたし、そろそろっ……♥」

● 中央 上 非常に近い

「【満足げに】

うん？ そろそろ我慢つらいですか？ イきたい？

じゃあ、ちよっと早くすりすりしますよ。おっぱい口から離さないように、ちゃんとお手々で持っていて下さいね。

※ここからSE12の速度が少し上がる

【ゆっくりと】

よし、よし♥ よし♥ よし♥ いっぱい気持ちよくなりましたよね。

よく眠れるように、すっきりさせましょうね。

※ここでSE12がフェードアウト

SE13 ..クラウドディアが主人公の股間に触れる音

【頭から最後まで流す】

【ゆっくりと同じ間隔で。 声に合わせてクリトリスをさすっているイメージで】

よし、よし♥ よし♥ よし♥ よし♥ よし♥ よし♥

ふふ。あと十回、ちゅこってしたらイけそうですか？

頭で数えて下さいね。

【ゆっくりと同じ間隔で。 声に合わせてクリトリスをさすっているイメージで】

ちゅこ、ちゅこ♥ ちゅこ、ちゅこ♥ ちゅこ、ちゅこ♥ ちゅこ、ちゅこ♥ ちゅこ、ちゅこ♥ ちゅこ、ちゅこ♥

ちゅこ♥

〈主人公〉

「あぁっ………♥」

●中央 上 非常に近い

「主人公が達したので、身体を支える」

ん……♡

【少し間をあけてから】

うふふ……頑張りましたね♡

よし、よし♡

ぎゅってしましょうね」

SE14 ..クラウドディアが主人公の背中を『ぼん、ぼん』と撫でる音

【途中から流す】

【3―5秒ほどの『ぼん、ぼん、ぼん』のみ流す】

クラウドディア、主人公を抱きしめて、左耳に向かって話しかける。向かって右。

●左 ささやく 非常に近い

「※マークまで、とても優しく、ゆっくりとささやく」

ねえ。私のかわいい先生。このまま寝ちゃっていいですから、聞いて下さいね。

【少し間をあけてから】

どんなにあなたにひどい事をする人がいても……私は絶対に味方です。

【少し間をあけてから】

だから、嫌な事があつたら、すぐ会いに来て下さい。

いつでも、必ずぎゅーしてあげます。

だから……忘れないで下さいね」※

このままフェードアウトして終了。